



## 幼年消防クラブ防火パレード

11月9日から15日の間に実施された全国秋季火災予防運動にあわせて、上島町内の各地区にて、幼年消防クラブ員による防火パレードを実施しました。パレードでは、保育所の園児が、拍子木を鳴らしながら、消防団員、消防職員と一緒に元気な声で「火の用心」と地域の皆さまに火災予防を呼びかけました。

## 愛媛県消防団員意見発表会で「優秀賞」を受賞

10月17日（火）「松山市コミュニティセンター」にて令和5年度愛媛県消防団員意見発表会が開催され、東予地区の代表として生名方面隊の増成穰士団員が意見発表をしました。

この発表会は、東中南予から選抜された3名の消防団員が、団員としての考え方や取り組むべき課題に対する対策について消防関係者に示し、消防団活動の諸問題に関して、より一層の知識の研鑽や意識の高揚を目的として行われています。

増成団員は「未来の消防団員」と題して意見の発表を行い、内容や態度、表現力が評価され、優秀賞を受賞しました。



増成 穰士 団員

## 令和5年10月出動件数

| 地区 | 弓削 | 生名 | 岩城 | 魚島 | その他 | 合計 | R5累計 |
|----|----|----|----|----|-----|----|------|
| 火災 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0  | 1    |
| 救急 | 25 | 14 | 5  | 3  | 2   | 49 | 411  |

(令和5年10月31日現在)

【上島町 消防署】 ☎77-4118  
 【上島町消防本部消防防災課】 ☎77-3166

地元愛 満点 守ろう上島町! 上島町消防団 絶賛募集中!!



11月13日 岩城保育所



## 愛媛県消防防災航空隊合同訓練

10月18日（水）地域交流センター、弓削港物揚場において、愛媛県消防防災航空隊と上島町消防署による合同訓練を実施しました。

愛媛県消防防災航空隊との合同訓練は毎年度実施しており、今年度は、林野火災に対する訓練を実施しました。まず初めに愛媛県消防防災航空隊の隊員から空中消火活動に対する講義が行われ、その後、消火栓から消火バケツへの給水訓練を実施しました。

この訓練を行うことにより、災害時における連携強化を図って参ります。



消火用バケツへの給水の様子



写真1

秋枝に発生したかいよう病

果樹類は永年性作物のため、いったん多発した病害虫が樹上で越冬し、翌年の発生につながることはよくあることです。冬季にしかできない越冬病害虫対策について解説します。

## (1) 主要病害虫の越冬場所

カンキツ類は、通年葉が茂る樹木です。樹上で越冬する病害虫も多く、越冬場所を知ることが防除を行ううえから重要です。主要な病害虫の越冬場所は表1のとおりです。

## (2) 農薬以外による越冬病害虫の防除

レモンや雑柑類でよく発生するカンキツかいよう病は、夏以降に発生した秋枝での病斑が来春の重要な伝染源となります。発病枝は春までに枝ごと切除して焼却しましょう。カイガラムシ類が密生している枝は枝ごと除去するかブラシ等で虫体をこすって殺傷するとよいでしょう。

## (3) 農薬による防除

冬季のカンキツ類は、果



表1 主要な果樹害虫の越冬場所

| 病害虫                    | 主な越冬場所             |
|------------------------|--------------------|
| ミカンハダニ                 | 葉裏（卵、幼虫、成虫）        |
| ヤノネカイガラムシ              | 葉、枝（幼虫）            |
| ロウムシ類                  | 枝（成虫）              |
| イセリアカイガラムシ<br>コナカイガラムシ | 株元や枝の割れ目、枝野切り口（幼虫） |
| ミカンサビダニ                | 芽内（成虫、幼虫）          |
| かいよう病                  | 枝・葉の病斑             |

実が付いている品種以外は、外観上、生育が停止しています。収穫後から発芽までの間の冬季にしか散布できない農薬について解説します。

①機械油乳剤（マシン油乳剤）  
 機械油乳剤は機械油を主成分とした昆虫の気門という呼吸器官をふさいで窒息させて殺虫する農薬です。主にハダニ類の成虫や卵、カイガラムシ類の越冬虫に卓効を示します。機械油乳剤には95%製剤と97%の製剤があり、冬季には高濃度での散布が可能で他の殺虫剤で効果のないカイガラムシ類の成虫にも効果がありません。ウメなどの落葉果樹や庭園木などにも冬季散布が有効です（ウメは花が咲く前まで）。

②ICボルドー66D  
 銅と石灰を調合した殺菌剤で、低倍率で発芽直前（3月前）に散布することで発芽後の新芽へのかいよう病の感染を防止できます。機械油乳剤との近接散布（2週間以上）ができないので計画的に散布しましょう。

(4) 冬季防除での注意

①機械油乳剤  
 散布後に葉、果実に油浸（油のシミ）が発生するので、必ず収穫後に散布する（時間が経過すると消失）。

●冬季（12月～3月）に2度散布をしない。

●衰弱樹には散布を控えるか97%製剤を3月に散布する。

●虫体にかからないと効果がないので幹などにも丁寧に散布する。

●翌年の花芽分化期の1月下旬～2月中旬に散布は行わない。

②ICボルドー66D  
 ●果実に付着すると汚れるので収穫後の散布を厳守する。

●機械油乳剤との近接散布に注意する（先に機械油乳剤を散布して2週間以上開けてICボルドーを散布する）。

●かいよう病の出やすい品種のみ散布する（温州みかん、八朔などは不要）。

表2 カンキツ主要病害虫の冬季防除

| 樹種    | 対象病害              | 防除時期                                | 薬剤名        | 倍数  |
|-------|-------------------|-------------------------------------|------------|-----|
| カンキツ類 | ミカンハダニ<br>カイガラムシ類 | 12月中旬～1月中旬または2月下旬～3月中旬（収穫後に1回散布を厳守） | 機械油乳剤（95%） | 45倍 |
|       |                   |                                     | 機械油乳剤（97%） | 60倍 |
|       | かいよう病             | 発芽前（3月下旬）                           | I Cボルドー66D | 40倍 |